

指導のねらい

伝えたい内容を的確に伝えるために、長い文を一文一文に書き分けたり、主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて一文を複数の内容に分けて書いたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

A ⑧ 接続語を使って一文を二文に分けて書く。

正答率15.0%

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 言語事項

(1)オ 文及び文章の構成に関する事項

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

授業アイデア例

例1 文の論理を考え、長い文を一文一文に書き分ける

例文

太郎は昔の話が大好きで、図書館でいろいろな日本の民話を読んでいだけれど、外国の民話を読んだことはなかった。

■ 三つの内容を一文で表している例文を読み、いくつの内容が含まれているか考える。

■ 「太郎は」を主語にして、例文を内容のまとまりごとに三つの文に分ける。

- 太郎は、昔の話が大好きである。
- 太郎は、図書館でいろいろな日本の民話を読んでいた。
- 太郎は、外国の民話を読んだことはなかった。

■ 接続語を効果的に使って文を分け、論理関係を考える。

【例】

太郎は昔の話が大好きで、図書館でいろいろな日本の民話を読んでいた。しかし、外国の民話を読んだことはなかった。

例2 主述の関係に気を付けて一文を複数の内容に分けて書く

例文

雨が久しぶりに降ったので、校庭のしおれていた花が元気になった。

■ 二つの内容を一文で表している例文を読み、いくつの内容が含まれているかを考える。

■ 「雨が」と「花が」を主語にして、例文を内容のまとまりごとに二つの文に分ける。

- 雨が、久しぶりに降った。
- 校庭のしおれていた花が、元気になった。

■ 二つの文をつなぐ接続語を考える。

【例】

雨が久しぶりに降った。だから、校庭のしおれていた花が元気になった。

留意点

- 第1学年及び第2学年では主語と述語との関係について、第3学年及び第4学年では修飾と被修飾との関係や文や文章における指示語・接続語の役割について系統的に指導する。
- 文及び文章の構成については、自分の考えが的確に伝わるように間違いを正したり、より良い表現に書き直したりするための推敲の指導と関連付けながら、様々な機会をとらえて継続的に指導する。